

## 北九州PCB処理事業所トラブル事象一覧（平成30年7月～31年1月）

No.	発生日時	発生場所	概 要	対 応 状 況
1	9/20-1:00	2期中間処理1F 下層中間槽	巡回点検時に下層中間槽(静置分離で下層に溜まった木酢液が流れる系統)の循環ライン手動弁タンク戻り側フランジから床面(不浸透塗床)に油の少量の漏れを発見。	フランジボルトの増し締めを実施したところ緩みは無かったもののガスケットの装着状態に偏りがあり密着性が低下していた。除染後にガスケットを交換した後は問題なし。
2	10/1-7:30	VTR-B号機 常圧凝縮器	設備点検時(設備は停止中)に常圧凝縮器回収タンク液送ポンプ吐出パイパス弁フランジ上部から下部のオイルパンに油の少量の漏れを発見。	フランジ上部に若干の緩みがあった。ガスケットを交換のうえ締め直しを実施した後は問題なし。
3	10/22-14:40	基幹物流倉庫	基幹物流倉庫から取り出した空パレット(オイルパン構造)に油の少量の漏れを発見。	パレットの使用履歴を基に当該ドラム缶の底板を調査したところ内部腐食はなく事業所搬入前(製造時)の段階で問題があったと推定。当該ドラム缶の内液を別缶に移載のうえドラム缶は切断して無害化处理済み。
4	1/3-20:30	2期中間処理1F 廃活性炭充填室	巡回点検時に廃活性炭充填装置に設置しているドラム缶から下部の床面(オイルパン構造)に少量の油と廃活性炭が飛散しているのを発見。	1回目の廃活性炭(油を含む)が投下済のドラム缶に2回目の廃活性炭が投下された際に跳ね返ってドラム缶と充填装置のテフロンバッキングの隙間から飛散したと推定。飛散防止措置としてドーナツ型のドラム蓋を設置するとともに1回の廃活性炭投下作業毎にドラム缶を交換した後は問題なし。

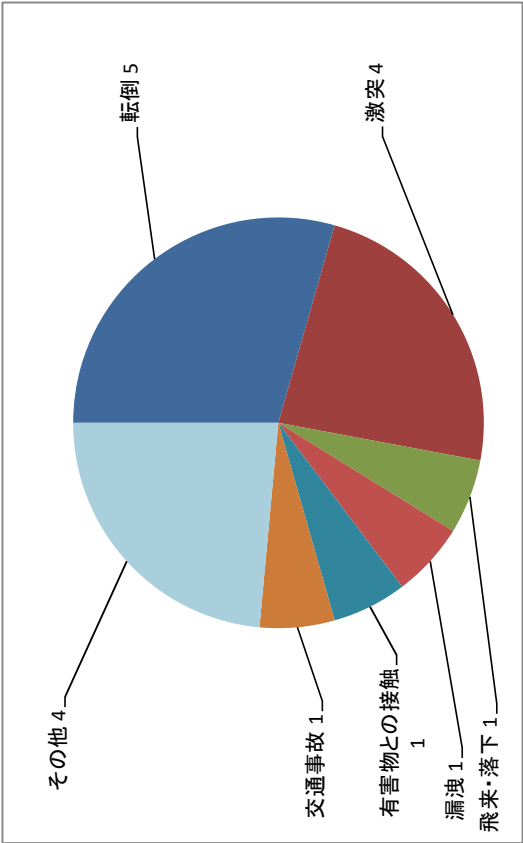
※「少量の漏れ」とは滲みやポタポタ程度の微量漏洩をいう。

このページは白紙です

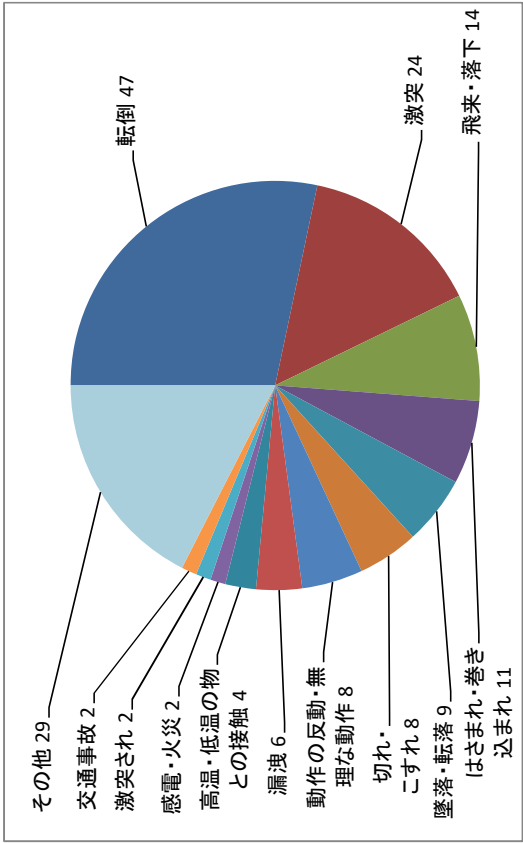
ヒヤリハット件数（平成30年2月～平成31年1月）

年	H30												H31	小計
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		
月	2	3	2	2	1	3	0	0	2	1	1	0	17	
実体験	12	11	13	14	13	12	15	14	14	19	15	14	166	

”実体験ヒヤリハット”は、提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、”仮想ヒヤリハット”は、提案者が現場で、もしかしたら発生するのではないかと考えた事象。



実体験ヒヤリハット



仮想ヒヤリハット